

# The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

September  
ISSUE



September 2, 2019  
Volume 94

## Message from the Head of Schools

国際学院初等部では一条校として学習指導要領の内容を学習します。2016 年度末に改定された学習指導要領の全面実施は 2020 年度からです。約 10 年ごとに改定される学習指導要領の今回の要点を見てみると、新たに、外国語が教科化されたことが大きな変更となっています。これまでは、第 5・6 学年に「外国語活動」がおかれていましたが、これからは第 3・4 学年に「外国語活動」を、第 5・6 学年に「外国語科」を新設することとしています。また、特別の教科として道徳が位置付けられています。さらには、情報活用能力の育成を図ることとされています。

大きな幹としては、(1) 知識及び技能が習得されるようにすること、(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること、が求められています。これらは学習の三要素とも呼ばれ、(1) 知識・技能、(2) 能力、(3) 態度、と表現されることもあります。授業時数については、第 3・4 学年で新設する外国語活動に年間 35 単位時間、第 5・6 学年で新設する外国語科に年間 70 単位時間を充てることとし（第 5・6 学年の外国語活動は廃止）、それに伴い各学年の年間総授業時数は、従来よりも、第 3 学年から第 6 学年で年間 35 単位時間増加しています。年間 35 週以上にわたって授業を計画することが求められていますから、年間 35 単位時間は、毎週 1 単位時間を意味します。初等部では、標準時数に比べて、2 割弱多い時数を授業時間としてきており、授業時数は十分足りています。

具体的な内容の移行も行われており、例えば、算数科において、第 6 学年から第 3 学年に、メートル法の単位の仕組み（k（キロ）、m（ミリ）など接頭語について）、第 6 学年から第 4 学年に、メートル法の単位の仕組み（長さと同面積の単位の関係について）、第 5 学年の素数は中学校第 1 学年へ、分数×整数、分数÷整数は第 6 学年へ移行し、第 6 学年から、メートル法の単位の仕組み（長さと同体積の単位の関係について）と速さが移ってきます。第 6 学年では上に示した内容と共に、中学校第 1 学年から平均値、中央値、最頻値、階級が移行してきます。

国語では、学年別漢字配当表の第 4 学年に、都道府県名に用いる漢字 25 字が配当されます。具体的には、学年別漢字配当表に新たに加えた漢字 20 字（茨、媛、岡、渦、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜）、第 5 学年に配当されていた漢字 4 字（賀、群、徳、富）及び第 6 学年に配当されていた漢字 1 字（城）です。これに伴い、32 字の配当学年を移行し、第 4 学年に配当されていた漢字のうち 21 字（囿、紀、喜、救、型、航、告、殺、士、史、象、賞、貯、停、堂、得、毒、費、粉、脈、歴）を第 5 学年に、2 字（胃、腸）を第 6 学年に移行し、第 5 学年に配当されていた漢字のうち 9 字（恩、券、承、舌、銭、退、敵、俵、預）を第 6 学年に移行しています。

社会や理科でも改定が行われており、例えば、理科では、追加した内容として、音の伝わり方と大小〔第 3 学年〕、雨水の行方と地面の様子〔第 4 学年〕、人と環境〔第 6 学年〕があり、光電池の働き〔第 6 学年（第 4 学年から）〕、水中の小さな生物〔第 6 学年（第 5 学年から）〕は学年間で移行し、電気による発熱〔第 6 学年〕は中学校への移行です。

本校では、日本語、算数/Math、English、Art、Music、P.E.、HFLに加えて、探究の単元において科目融合型のカリキュラムを実施しています。また、宗教と特別活動を行っており、今回の改定で重要視されている道徳教育については、その柱である「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を、宗教を中心として進めていきます。

新しい学習指導要領でも、カリキュラムの大きな変更は必要ないと考えています。探究の単元への落とし込みという操作はありますが、enhanced PYP への変更もあり、全体を俯瞰して、学習指導要領と enhanced PYP に対応した教育課程を計画していければと思います。子どもたちの健やかな成長に資するために、これまで通り、もしくは更なるご協力をお願いいたします。

学校長 太田 哲男





## キリスト教 教育テーマ 9月：調和 September: Harmony

「キリストは、私たちの平和であり、二つのものを一つにし、  
ご自分の肉によって敵意という隔ての壁を取り壊し、  
…ご自分において二つのものを一人の新しい人に造り変えて、平和をもたらしてくださいました。」

### エフェソの信徒への手紙 2章 14節-15節

8月初旬、韓国のソウルへ旅行に行ってきました。二泊三日の短い期間でしたが、いろいろと新鮮な刺激を受けた、楽しい旅でした。今回は飛行機も格安航空ならホテルも格安ホテルにしたお蔭か、他の国から来た方々とも接触する機会が多く、お隣でも十分に異国情緒を味わうことができました。

実は出発前、一抹の不安がなかったわけではありません。ニュースでは連日のように日韓関係の悪化が取り沙汰され、両国で観光や交流を目的とした旅行のキャンセルが相次いでいる、と報道されていた最中です。向こうで日本人だとわかったら多少冷遇されるかも…などという考えが脳裏をよぎったことは事実です。

しかしながら行ってみると、そのような懸念は吹き飛びました。“Where are you from?”と聞かれ、“I’m from Japan.”と答えた途端に日本語で話し掛けてくれるとか、たとえ黙っていても様子で日本人だとわかるのか、道に迷っていそうな時に親切に声を掛けてくれる韓国人は大勢いました。かねてから人に頼まれていたお土産を買うために夜、露天のタレント・ショップを覗いていたところ、店の主人が目当てのK-Popアイドルのカレンダーをお手頃価格で薦めてくれたので、二冊購入しました。日本の若者が韓国アイドルに憧れるように、韓国の若者もまた日本のアニメーションやポップカルチャーに憧れを持っているといえます。正式な学術交流会や研修会などで互いの国の歴史や文化を学び合うことはもちろん大事ですが、このように自分が本当に好きで没頭しているサブカルチャーを通して、人は他国やその国民に尊敬心を持つことができるのではないのでしょうか。

このようなご時勢だからこそなおのこと、我々は積極的に草の根レベルの交流に励む必要があります。「敵意という隔ての壁を取り壊してくださいませるキリスト」の御力をひたすら信じ、政府間で何があっても従来の友を信じて愛しぬき、更に新しい出会いを求めて出かけて行く勇気を持ちたいと思います。



明洞の大聖堂



聖堂内部



Christian Education Committee 石川眞弓

#### <お知らせ>

・9月2日(月) 10時~11時、聖書の会

講師：加藤真子(同志社女子大学専属オルガニスト) 場所：チャペル

※お話を交えたパイプオルガンの演奏会です。参加申し込み不要ですので、どなたでもお気軽にお越しください。

・9月10日(火) ランチタイムにおにぎり献金を行います。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持たせください。

## 我が家の居候

皆様、夏休みはいかがお過ごしになりましたでしょうか。秋学期が始まりました。学校に帰ってきた子どもたちはこんがり日焼けし、笑顔がまぶしく、「先生、いっぱい虫を捕まえたよ!」「海に行ってきた。」「おばあちゃんとおじいちゃんに会ってきたよ!」と、瞳を輝かせて担任や友達に報告していました。中には「もう少し夏休みがほしかったなあ。」との恨めしい声も聞こえ、思わず笑ってしまいました。

秋学期を迎え、フレッシュな気持ちでスタートしたところですが、夏休み後にやってくるのは体のだるさからくる倦怠感です。皆様ご存じのように、夏の暑さによる疲れや普段の生活リズムが崩れてしまうことが主な原因で、これには軽い運動や早寝早起きが有効です。かく言う私も、普段の週末でさえちょっと朝寝坊するともう生活のリズムが崩れてしまいますので、毎年お盆休み後には体調を整える苦勞をしていました。「苦勞をしていた。」と書かせてもらいましたのは、今年は例年と違っていたからです。今年の休みは朝寝坊することなく普段と同じ時間に起き、あるルーティーンを行っていたからなのですが、それは「つばめの様子を確認すること」でした。「ルーティーンを行っていた」と書くとは積極的に活動していたように聞こえますが、何のことはありません。実は雛がえさを求めて朝早くから結構な音量で鳴くので、「起こされた。」と言うのが正確なのです。

私が子どものころ、夏休みに祖父母の元を訪れると、玄関の軒下につばめが巣を作っており、大きく口を開けた雛が数羽、親鳥の帰りを待っている様子を目にしました。当時祖父から「つばめが巣をつくる家は、繁栄するとか、幸せになるとか言われているよ。」と聞かされていたので、「私の家にも作るとういなあ。」と願っておりました。それからずいぶん時間が経ちましたが、今から3年前、自宅の玄関の壁の上部に土が塗りつけられているのを発見しました。「後で掃除しよう。」としばらく放っておいたところ、わらの入った土が塗りこめられた頑丈そうな巣が出来上がっていたのです。「これはもしや、私の長年の夢がかなうかもしれない!」と喜んだのも束の間、その年つばめは戻ってきませんでした。がっかりした次の年、つがいのつばめがやってきました。大喜びして毎日玄関からこっそり様子を見ていたものの、ヒヨドリに攻撃され、途中で巣から離れて行ってしまいました。卵を抱いていたようで、玄関先に割れた卵1つを見つけたときは、とても悲しい気持ちになりました。

つばめが巣を作ってから今年で3年目。「もう来ないかなあ。」とあきらめかけたころ、彼らはやって来たのです。昨年ヒヨドリに攻撃されて壊されていた巣の一部が見る間に修復され、そこで過ごす姿が見られるようになりました。一羽が昼間も巣から動かない様子を見ると、卵を温めているようです!雛を天敵から守るにはどうしたらよいか、万が一巣から落ちたらどうしたらよいか、今までの残念な経験からも、今年は何とか無事雛にかえってほしいと、私自身が親鳥のような気持ちで調べてみました。その結果、つばめは天敵(へび、猫、大型の鳥など)から雛を守ってもらうために民家に巣を作ること(人と共存する)、最初に孵化した卵の殻を大家さんにプレゼントすること(玄関先に置く)など、感心することが多かったとともに、身近でありながら、その生態をよく理解していなかったことを反省しました。実際に1つ目の卵の殻が玄関先に置いてあったときには感激し(落ちていただけかもしれませんが)、有り難く頂戴しました。かえった雛は徐々に成長し、少しずつその頭部が巣から見えてきます。私や家族が玄関の戸を開けると親鳥が帰ってきたと勘違いするのか、口を大きく開け餌をねだって鳴く姿がとても愛らしかったです。よくよく口元を見てみると、くちばしが縁どられるように白くなっており、親鳥が雛の口を認識しやすくなっていることに感心しました。日々の成長を楽しみにしていたのですが、時には自然の厳しさを感じる出来事もありました。卵は6個あったようですが、1つは雛がかえってすぐに巣から落ちてしまい、その後の成長過程では2羽が落下、大人になれたのは半分の3羽でした。

旅立ちの日はあっという間にやって来ました。大きくなった3羽の雛が、巣のふちにとまって今にも飛び立ちそうな様子を見せていました。夫が「飛ぶ練習をしていた。」と言っていたので、そろそろかとは思っていたのですが。数日後近所で子育てをしていた親戚も含め、家族勢ぞろいで自宅玄関先の電線にとまっていた。それが旅立ちの日とは思ってもよらず、呑気に「あの子まだ飛ぶ姿がおぼつかないなあ。」と電線から庭木の枝に移る姿をほほえましく見ていたのですが、今考えると大家である私たちにあいさつに来ていたのではないかと思うのです。「ここまで大きくなりましたよ。ありがとう!」と。それを最後に彼らは姿を見せなくなりました。まだ南の国に帰る時期には早いように思うのですが、子育てが一段落したのでしょうか。いま我が家の別邸は空き家の状態です。家に帰るたびに巣を見上げる習慣がついてしまい、空っぽなのはわかっているのですが、今でもついつい軒先を見上げてしまいます。淋しい気持ちと共に「来年もまた是非帰ってきてね。」と願ってやみません。

中国の詩人白樂天の作品に「燕の詩」があります。私は高校でこの詩を習いました。ご存知の方も多いことと存じますが、これは巣立っていく子つばめを思い、悲しみに泣く親鳥の心を読んだものです。この詩の続きには「思い返してごらん。あなたたちも同じように親元から巣立ったのだよ。親の気持ちを今まさに知るときなのですよ。」と書かれており、人生と重なります。白樂天の家の軒下にもつばめが巣を作ったのではないかと想像するのですが、私自身つばめの旅立ちでこの詩を思い出し、改めて味わい深く感じました。—我が家の居候のおかげで生活のリズムを崩すことなく過ごした夏でしたが、今はちょっぴりさみしい秋を迎えています。

# DIA LIBRARY からお知らせ

入り口ではいつも季節や子ども達の探究の学びを意識した Library SG さんによる毎月の美しい壁面装飾で利用者を迎えています。(図書館はその装飾の前にテーマ展示をさせていただいています。5月は令和の資料を、そして夏休み前は課題図書など工夫しました。)



夏休みまえの「こわーい本」のコーナー！！子ども達に大人気でした。



1年生に本を読んでもらったり、いっしょに本をさがしてあげたり、雨の日に読み聞かせをしてくれたりする図書委員会の6年生達です。

秋学期もどうぞよろしくお願ひいたします。  
「百聞は一見にしかず」です。是非直接 DIA Library にお越しください。  
司書教諭 上里 久美

## 9月の主な行事・予定

1	Sun	
2	Mon	Unit3(week2)
3	Tue	
4	Wed	クラブ
5	Thu	入試前日準備 (午前授業)
6	Fri	入試
7	Sat	
8	Sun	
9	Mon	Unit3(week3)
10	Tue	
11	Wed	G6 第3回修学旅行説明会 委員会
12	Thu	
13	Fri	
14	Sat	
15	Sun	立石杯英語プレゼン
16	Mon	敬老の日
17	Tue	Unit3(week4)
18	Wed	G3 宿泊学習 クラブ
19	Thu	G3 宿泊学習
20	Fri	G3 宿泊学習
21	Sat	
22	Sun	
23	Mon	秋分の日
24	Tue	Unit3(week4) PYP プラン (午前授業)
25	Wed	G6 修学旅行
26	Thu	G6 修学旅行
27	Fri	G6 修学旅行
28	Sat	G6 修学旅行
29	Sun	G6 修学旅行
30	Mon	G6 修学旅行

## 10月の主な行事・予定

10/1(火)~10/2(水)	G6修学旅行
10/3, 4	G6代休
10/11(金)~10/12(土)	G1宿泊学習
10/19(土)	スポーツデー
10/21(月)	スポーツデー代休
10/23(火)	スポーツデー予備日
10/25(金)	ハロウィン
10/29(火)~11/1(金)	G5宿泊学習